

2013/07/30(火)18:17

授業コード	81Q18
授業科目名	パブリック研究プロジェクトI (20)
担当者名	倉本直史(クラモト タカシ)
単位数	6
開講期別	2013年度 前期～後期
曜日・時限	前期(木曜4限 木曜5限)、後期(金曜4限 金曜5限)
特記事項	
オフィスアワー	
講義の内容	本プロジェクトは「遊び」ではない。大学人として必要な思考力を鍛える「修行」の場である。 本プロジェクトでは公共部門が地方経済の中で果たす役割を考える。特に、「地域の活性化」に代表される地方・地域社会の経済問題に対して公的部門がいかに取り組むことができるのかを財政面から考える。
到達目標	地方において何が問題かを考え、その問題解決のための政策提言を行う。
講義方法	現実問題の本質を理論面から導く際には、対話型講義形式を採用する。 具体的な分析段階においては、参加者全員で議論しながら望ましい分析方法、結果の解釈を導く。 なお、毎回グループごとに宿題を出す。政策提言は、年3回以上の報告機会を設ける。
準備学習	公共政策の研究が出来るよう、理論の枠組み、分析手法を「実践創造科目」や「ワークショップ科目」で学びながら、それらで得られた知識を実際に使用してもらう。具体的には、「公共政策」と「リサーチスキルIV」を受講しているか、本プロジェクトと同時(前期期間内に)受講していること。この2科目での知識がないと、他のメンバーに迷惑がかかるため、いかなる理由があろうとも、この2科目は必ず受講すること。
成績評価	夏季休暇中(8月)に他大学とのインナーゼミ(研究報告会)を予定している。 また、WESTにて政策提言を行う(中間報告9月、最終報告11月、他WEST主催の勉強会数回への参加は必須)。 やる気のある学生が集まった場合には、ISFJへの参加も検討する。 また、12月には関西圏の他大学とのディベート大会にも参加してもらう。 これらインナーゼミ大会、論文報告会等での報告に向けた取り組みを成績評価の対象にする。なお、報告会等については、バイトやサークル等の私事を優先しての不参加を一切認めない。不参加に伴う成績評価への負の影響は理解しておくこと。
欠席基準	授業実施回数の3分の1(端数は切り捨て)以上を欠席した場合は、単位を修得することができません。(「欠席」評価となります。)
講義構成	(第1週)～(第5週):教科書の読み込み&関心ある分野の資料収集 (第6週)～(第12週):仮説と分析方法の決定&データ収集 (第13週～第14週):分析 (第15週):論文作成 (第16週)～(第18週):分析の修正 (第19週)～(第26週):論文修正・報告の練習
教科書	浅利一郎・山下隆之・伊東暁人・石橋太郎・黄愛珍(2008)『[第3版] はじめよう経済学のための情報処理 Excelによるデータ処理とシミュレーション』日本評論社。
参考書・資料	
講義関連事項	
担当者から一言	本プロジェクトへの参加を希望する者(聴講生も含む)は、必ず説明会に参加すること。やむを得ず説明会に参加できない場合は、事前にメールにて相談すること(事前相談以外の例外はいかなる理由があろうとも認めません)。なお、聴講も認めるが、プロジェクトメンバーの人数等によっては聴講を断ることがあることも理解しておくこと。また、聴講を認められた学生は最後まで参加すること(他のメンバーの迷惑になるため、途中で辞めるための言い訳は一切認めない)。
その他	
ホームページタイトル	
URL	